



本 日 第2148回 2015年4月19日(日) No. 2034

本日のプログラム Today's Program

点 鐘

例会担当:親睦活動委員会

ロータリーソング 「事仕の理想」

春の家族会 伊勢方面

前 回 第2147回 2015年4月10日(金) 記 録

○斉 唱:「日も風も星も」

○来訪者:瀬戸北RC

近藤 博資君

出席者:会員24名中19名出席 出席率79.16%

前々回補正出席率 3月27日分95.83%

会長あいさつ

古橋 裕志



「継ぐ、難しさ」は、どの時代にも会社、家庭といろいろとついて廻りますが、先般の〇〇家具のお家騒動は、世間の注目を集めました、

「継ぐ、難しさ」を如実に表した同族企業の典型ではないでしょうか。従来の路線を守る創業者、改革を進める二代目、ビジネスという合理的判断に、家族間の感情が入り、お互い遠慮がない部分感情論に発展し、冷静な話し合いができなくなり収拾がつかない、この様な、お話は世間にいくらでもあると思います。

- ・理屈で割り切れない感情が入る。
- ・第三者が仲裁しにくい。
- ・世代間の考え方のギャップが埋まらない。
- ・社内に兄弟がいると勢力争いになりやすい。
- ・株式の継承のタイミングが難しい。等の後継に社長の座を譲った後も、大株主としての影響

力を行使、後継者は経営手腕を十分発揮できず不満が募り対立が生じやすい。その結果、対立が表面化し、社員間も先代派と二代目派と分裂し、自然に顧客が離れ、仕入先、得意先からも信用を失い、銀行からも不安視されて、倒産の浮き目になるかもしれません。

今の時代は大小の小売業、サービス業とも困難な選択の時代に入り、親子でも相手の立場になって考え、意思疎通を図り、御客様第一主義に徹する経営理念が必要ではないかと思います。

ある有名な〇〇マホービンの会社は二代目が叔父で三代目が先代の息子ですが、やっぱり社員間に派閥が出来、2トップ体制に見られがちでしたが、引き継ぎの段階で三代目は二代目に手紙を通じて理解を求め、うまく世代交代をしました。もし口頭で受け答えをしていたら、お互い感情が入って関係がこじれていたかも知れませんと今の社長は述懐しています。

その他、はかりメーカーの〇〇〇、ファミリーレストランの〇〇〇〇〇、お肉で有名な〇〇精肉店等世間にはまだまだ多くあるようです。

引き継ぎに対して先代の考えと自分の考えをうまく取り入れて、その会社、店の経営理念を実践することが大事だと思います。会社、店は生きもの、生きている以上、お互いの意思疎通を図り、長生きしましょう。

雑誌月間

	4月24日(金)	5月 1日(金)	5月 8日(金)	5月15日(金)
例会予定	卓話担当者:舟橋龍秀君 卓話者: 〃 演題:「精神障害者はなぜ罰せられないことがあるのか?」	卓話担当者:例会運営委員会 卓話者:西尾輝久例会運営委員長 演題:「例会運営について」	卓話担当者:菊田利昭 青少年奉仕委員会 卓話者:旭野高校 校長 小川 八郎様 演題:「ツーロック贈呈と学校紹介」	卓話担当者:加藤勇夫君 卓話者: 〃 演題:「よもやま話」

幹事報告

- ・4/3 第13回理事役員会 於尾張旭市商工会館
古橋裕志会長以下11名出席
- ・本日の会合：次期クラブ協議会
第5回現・次期OFDY委員会
- ・次回の例会：4/19（日）春の家族会 AM8:00出発
- ・例会変更のお知らせ：掲示板をご覧ください。

ニコボックス

○お邪魔します。また、弟がお世話になっています。ありがとうございます。

瀬戸北RC 近藤 博資君
○瀬戸北RC 近藤 博資君、ようこそお出で下さいました。金森 俊輔君、古橋エツ子君
○森井 晴生君の卓話を楽しみにしています。

古橋 裕志君
金森 俊輔君、菊田 利昭君、舟橋 龍秀君
○4月19日、家族会です。出発はAM8時、出席される皆さんは、宜しくお願いいたします。

加藤 清久君
○本年度、霞陽会（かようかい）のご案内をうれさせていただきました。宜しくお願いします。また、卓話をつとめさせていただきます。

森井 晴生君
○孫がピカピカの一年生、親以上に私たちの方が気をもんでいます。古橋 裕志君
○三浦さん、ネームプレートの止めクリップ修繕ありがとうございました！！ 高島 昇君
○雨ばかりで、仕事がなかなか進みません！

江尻 豪君

次期クラブ協議会報告

- 日時 平成27年4月10日（金）13:35～
場所 尾張旭市商工会館内 第一会議室
議題 1) 各委員会の計画について
各委員長より次年度、活動計画の概要説明がありました。
2) その他の件
各種外部活動の宣伝用リーフレットの作成の提案があった。

第5回現・次期OFDY委員会報告

- 日時 平成27年4月10日（金）クラブ協議会終了後
場所 尾張旭市商工会館内 第一会議室
議題 1) 次年度の計画について
委員長より、説明がありました。

卓話

「霞陽会のご案内」

森井 晴生

霞陽会は、天理教名古屋大教会周辺の霞ヶ丘地区、また守山区大森地区の人々に、記念建物である「こふき亭、茶屋、河原町旧教祖殿」そして庭を開放し、模擬店なども用意して親睦を図って頂き、また毎年様々な芸能団体を招聘し、



お客様に楽しんで頂いています。本年は雅楽・舞楽をご堪能頂くことになっております。

次に霞陽会でご覧頂く記念建物を紹介いたします。当教会が昭和32年に現在地に移転をしてから58年になりますが、移転当初仮神殿として使用したのが「こふ

き亭」です。この建物は享保八年（1723）飛騨高山の地に建造されましたが、昭和15年、陶器商浅井竹五郎氏によって現在地に移築され、「玄々荘」と名付けられて東西の財界人や高名な工芸家の交流の場として使われていました。それを当教会が譲り受けたものです。内藤昌教授（安土城天守閣復元で有名）の指導監修のもと、昭和60年復元されましたが、通常の文化財として保存するのではなく、将来まで使用しながら保存できるよう、新しい要素を加えつつ伝統的なものを生かす技法が用いられています。そのデザインテーマには伊勢物語の八つ橋が選ばれ、棚や月見台の手すり等にこの八つ橋をテーマにした意匠が施されています。「こふき」とは、天理教用語で「いつまでもつづく宝」という意味です。

茶室「ろくぢ庵」は名古屋城二の丸にあった猿面茶屋の写しで、前述浅井竹五郎氏によって複製されました。「ろくぢ」とは世界中一列を平らにするという意味です。

河原町大教会旧教祖殿は明治35年、京都に建立されたもので、名古屋大教会の初代がその建立に深く関わっており、現在地に復元させていただきました。明治30年代は宮大工の技術も木材の質も最高の時代でした。その頂点を極める技術と材質を駆使した建物です。節のあるような材料は皆無で、驚嘆すべきは、隠れた箇所でも最高の木材を使っているという点です。付属の唐門は四方唐門と称し、建築上最高に難しい門とされています。

一隅を照らす

ロータリー活動は自分が立っている足もと、その一隅をしっかりと守り、そこを照らすことが第一義の使命です。それぞれ価値観も社会情勢も違う全世界に拡がった新世代においては、それぞれのクラブに与えられた「一隅の文化と伝統」をしっかりと守り、そこを照らすことが肝要だと思います。洩れなく各所にその灯がともれば、その光は正に全地球を照らすこととなります。またその灯火の光は色とりどり、それぞれ違っていいのです。それが「新世代のロータリークラブ」です。

佐藤 千寿「新世代のロータリークラブ」より

